

三百九十
七宝朗詠大成
合冊
一冊



仁徳大納言之任

權大納言正三位朝臣

三条用白太政大臣

廉義公頼忠一男

母一代的親王女也

洛陽西洞院の東

公任の古跡の詩



名人林能書の書

北外拾遺集なま

選みよまゝしり朗

詠あつたは

雨の若倉山乃

小也今よ胡詠

昔とて傳くゆり



七宝朗詠月録

一 名やうく八けい詩方 并三引方

一 唐詩仙 雷像

一 中納言仙 和方二重人吉方

一 きんちう故実

一 周公七家決分

一 源氏物語五字位 香之馬引方入

一 中行事和歌

朗詠は元来大納言公任の大臣兼内白

教乃とていふ天狗をたれとせし時む

よりたまたまいふ小碓の箱よへんとて

選たすなり和必より方なりつて志ひ

との唐詩を詩をけりて志とて

中納言も法式とけりて天武天皇

の御子大侍の皇子神く詩賦を

作りたまひしよりわい方せりうへ

和方と申して凡月のもてあはひ

とせり朗詠とて志とていふの

古より詩方よりとけりてうへ

柳枝

和漢朗詠集目録

春

立春 しゆん ちゆん

早春 そうしゆん

春魚 しゆん の ぎう

春夜 しゆん の よ

子日 ねのび 付若

三月三日 さんがつ さんじつ

暮春 か ちゆん

三月盡 さんがつ じん

閏三月 うるふ さんがつ

鶯 うす

霞 かすみ

雨 あめ

梅 うめ 付若

柳 やなぎ

花 はな 付若

躑躅 つとむ

欵冬

藤



夏

更衣

首夏

夏夜

端午

纳凉

晚夏

花檣

蓮

郭公

螢

蟬

扇



秋

立秋

早秋

七夕

秋魚

秋晚

秋夜

八月十五夜

九月九日

九月盡

女房志

萩蘭

薜蘿

紅葉

鴈



冬

初冬

冬夜 歲暮

爐火

霜

雪

冰

霰 俳石

雜風

雲

晴

曉

松

竹 鶴

榛

管絃

文詞

酒

山

水

禁中

古京

故宮

仙家

隱倫

回家 隣家 小寺 佛事 僧 困后

眺望 餞送 行旅 庚申 帝王

親王 丞相 將軍 刺史 蘇史

王昭君 妓女 老人 交友 懷舊

述懷 慶賀 祝 憲 無常 白

和漢朗詠目錄終

春 立春

逐吹潛用不待芳菲之候

迎春乞髮將希雨露之恩

池凍東頭風度解窓梅小

面雪封寒

菅篤茂

柳無氣力除先劫池有波

瀟湘八景詩歌 八景詩或說東坡之 為八景詩或說東坡之 瀟湘八景詩歌 八景詩或說東坡之 為八景詩或說東坡之

船の家の涼水

船の家の涼水

船の家の涼水

船の家の涼水



文水盡用

今日不知誰計會春風去

水一時來

白居易

夜向殘更寒磬盡喜生香

火曉爐燃

良春道

神ひらてしすひり水のこちまらと
けりそけいきぬののぬをとくく春
まくらせいあくららにやみりし
やまもとすみとけいさみむし

漂湘水ぬ

早春

先自望江易
水清田地蘆
鐘響春入枝

柳眼但
除柳眼但

元稹

先遣和風報消息
續教啼

鳥既來由

白

東岸の岸之柳
遲速不同

南枝小枝
梅并落已矣

流淚痕

おののちをなほ
すしをなほ
おののちをなほ
すしをなほ
おののちをなほ
すしをなほ
おののちをなほ
すしをなほ
おののちをなほ
すしをなほ

明鏡 大御言長権
法名
津のやう
おふん
あふん
波のよ
道徳院
月とあつち
秋風うき
桂衣 権女将源
国永法名
秋風うき
すしをなほ
月とあつち

おののちをなほ
すしをなほ
おののちをなほ
すしをなほ
おののちをなほ
すしをなほ
おののちをなほ
すしをなほ
おののちをなほ
すしをなほ

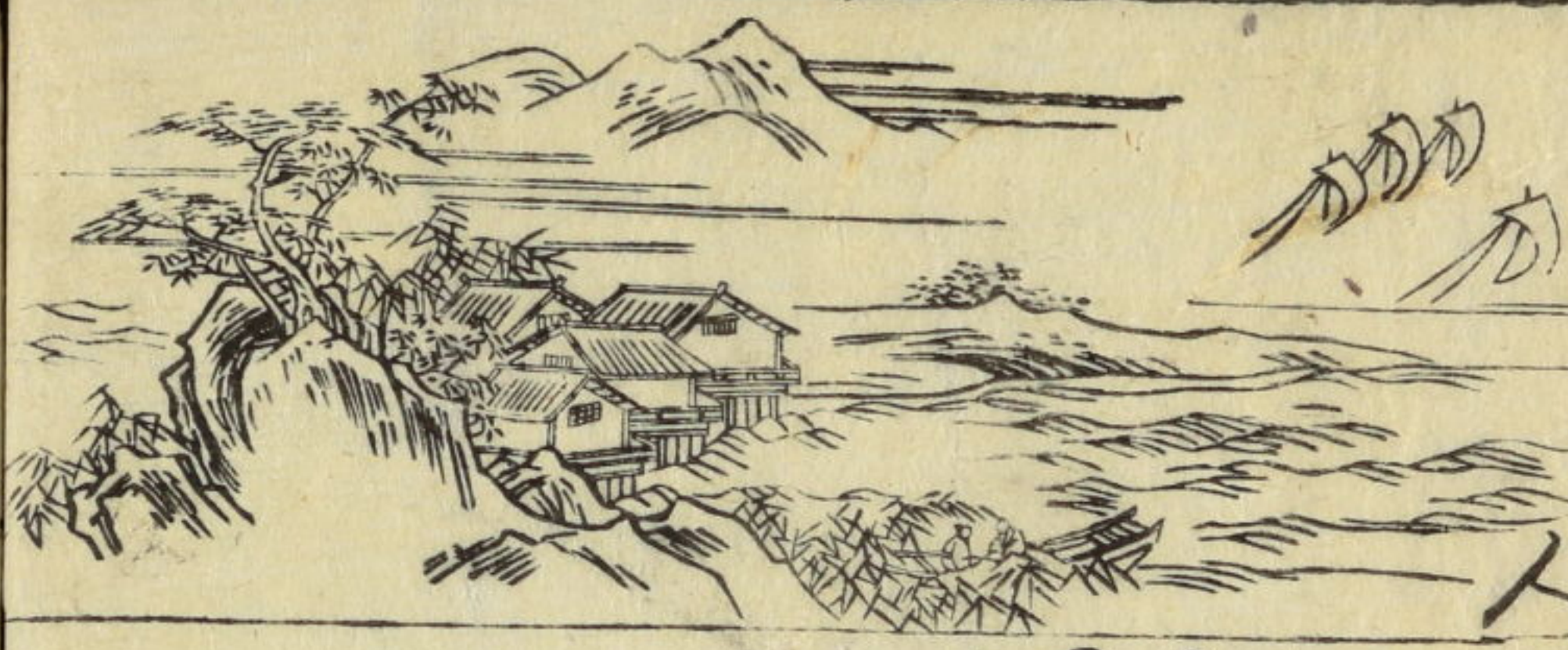
野中菟菜 世事推之 道心
爐下和養 俗人属之 義指

あすのうら
あすのうら
あすのうら
あすのうら
あすのうら
あすのうら
あすのうら
あすのうら
あすのうら
あすのうら

三月三日 付栴

春来 遍是 栴 俗 水 不 辨 仙 源 何 處 劫
是 之 暮 月 之 初 天 醉 千 花 栴 杏
感 也 我 君 一 日 之 澤 万 様 餘 曲 為

舟りし舟の
うき海らと
みくはりま
さるは海か舟
人



唯遠遠慶隆絶書巴字の知地母思
魏文以翫风流盖志之所之羅獻少
序云尔
菅三品

煙霞遠近應同户
桃李淡凉似物面
水成巴字初之日源起周年は安和
凝石匠来心竊約幸流遠る子先之造

桃

菅三品

遠浦帰帆

遠東まの二

株杖湖平館

浪揚る流揚

橋脚入意毛

古家更更局

江上水

夜更偷隠曾波之眼新嬌
曉風後吹不言くは七人嘆
みくはりま
さるは海か舟
人

暮春

拂水柳花子万珠隔橋常音更之新
但翅沙鷗湖落曉礼線短馬車深春
人無更少时浪揚年之考春深莫定

海東人の名を
いふは波のふ
さけつらんは
さけつらんは

采雅

善妙の志願
ふんせひ
ひさしをて

舟人

舟人
舟人
舟人
舟人
舟人
舟人
舟人
舟人
舟人
舟人

劉伯若知今日好應言世處空言何
いふは波のふ
さけつらんは
さけつらんは

三月盡

留春人不駐
留春人不駐
留春人不駐

狀風不乞
狀風不乞
狀風不乞

竹院君困消
竹院君困消
竹院君困消

惆悵春波
惆悵春波
惆悵春波

送春不用動舟車
送春不用動舟車
送春不用動舟車

若使韶光
若使韶光
若使韶光

笛春南州城
笛春南州城
笛春南州城

音小の
音小の
音小の

まはた
まはた
まはた

まはた
まはた
まはた

田三月

舟人
舟人
舟人
舟人
舟人
舟人
舟人
舟人
舟人
舟人



善の心持あり
 けし小結のきふ
 意のこゝろも
 いぢくがわ

遠寺晚鐘

雲遮不見梵

多文殿鐘

勢祈晚風此

言卜方狂言

を乃云只在

山中

今年回在春二月
 新看金後一
 陽彩訝鷓鴣更
 遠南在孤雲
 碎林舞蝶空
 翩翩於一月
 花悔後根無
 益鷓鴣入空
 心已過約
 伊勢

鷓鴣

鷓鴣鳴忠片待
 且常未以迷
 賢世谷

誰家碧樹鷓鴣啼
 西窗暮猶幽
 幾重花堂夢覺
 向珠箔卷未
 咽穿山雲啼
 當穿沙屋草
 葉殘
 雲入酒常
 呼水西窗
 風沙地
 鷓鴣語
 東老下
 葉名
 楊花
 性水
 感同
 於相
 束離
 鳴唐
 春
 鷓
 去雲
 氣而
 終
 濕
 結
 吟
 真
 誰
 付
 曉
 啼

おそく死
はむ

しやうへの
きん

山
たれ雲



山市晴嵐

一竿海旗斜

功素数鏡人

夜輝清中

山語醉眠

玄靴

大雲母

山風

或岳必下 漲増墨子 悲

時舞鬢 間晴 幼 後 郎 之 思

長示 轉 聲 花 外 惹 詩 池 板 色 中 涼

登 得 自 為 老 父 母 泣 未 寧 辭 美 君 臣

花 新 開 月 初 陽 澄 鳥 先 返 時 薄 暮 愁

斜 脚 暖 風 先 扇 處 晴 初 日 未 晴 復

わらわら 伊勢

あとも やき乃 えさ さいり せり せり せり せり

梅

白 行 落 梅 浮 石 乃 香 標 新 柳 出 城 塙

梅 花 第 一 香 死 却 上 初 也 輕 入 海 中

漸 薰 臘 雪 新 封 裏 偷 送 去 風 未 死 先

五 嶺 蒼 雲 注 其 但 遠 天 度 野 林 梅

離 春 色 遠 東 列 為 暖 南 村 花 始 研



あ
の
景
を
見
て
は
し
ら
ぬ
江
の
夕
景
の
美
し
さ
は
た
し
か
ら
ず

漸欲拂他騎馬客未多危乃下橋人

巫女廟花紅似彩服君村柳翠花眉

誠知老古風情少見此爭言一白頭

大度處楊早落誰同粉粉這座

山之香未開豈知紅詠

紀綱言

雲擊紅鏡投葉自春嬌黃珠柳柳風

枕電迎晴在月陽陸地香月水煙涼

江
之
香
香

深心身渡交枝桂岸上風香濕葉瀕

雲
淡
下
紅
絲

翠
翠
扁
舟
一

葉
之
比
力
前

淺
水
乳
粉
粉

樽
疑
先
出
露

乘
興
人

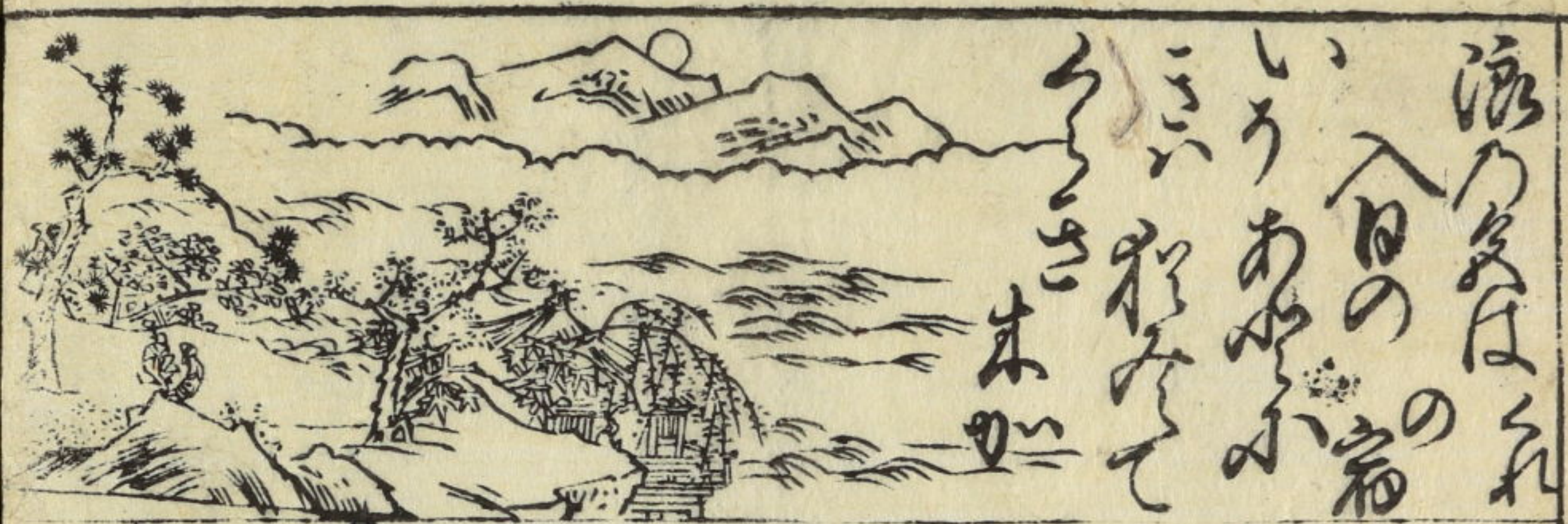
あ
の
心
を
も
た
し
て
は
し
ら
ぬ
江
の
夕
景
の
美
し
さ
は
た
し
か
ら
ず
み
づ
の
う
ら
み
を
も
た
し
て
は
し
ら
ぬ
江
の
夕
景
の
美
し
さ
は
た
し
か
ら
ず

花
付
落
也

花のつと花輕杆地乃陌之磨

精川之山斜月紫子露之秋

池之深く藍波水花光燃く火燒春



浪の交はれ
 入日の霜
 いうあやふ
 ころみて
 木か

海村夕照

落着沙城
 礼鴉江南江
 小舟直帆東
 帝賞酒出露
 秋外者風
 年秋卷

落花

落花流水
 朝露落花
 春花面
 入酣暢
 之運
 曉堂
 舞

後江相公

落花流水
 朝露落花
 春花面
 入酣暢
 之運
 曉堂
 舞

脚端

落花流水
 朝露落花
 春花面
 入酣暢
 之運
 曉堂
 舞

秋卷

上

十四

まつあさころ
あーへのとも
にさうはれて
うらゆかり
もまたたか
なり



平沙落鷹
古字書空漢
墨模幾秋
鷹下寒河蘆
花錯化漸陽
雪誤向斜
陽暎凍翎

上
見頓竹葉綠著秋陰度蓋入夏開
暮重石面雅衣龍荷出池心小る露
なうやこりうらむやけり成へう心
なうこらふらとみおるふれりる順

交和

風吹指石陽天雨在照平沙夏夜若
風生竹葉之音引及照花はままの
を夜寒雨世度流流物月物

なうのねをねぬよ阿香ねといひや
あうの物とやわらひさうりまじり人丸
かうこさすあもさうされうらうの
ひりりわれいあうう物つる日
あうのねハ物とやさすれと物云
なうりるさうりくわりのめ 貴之

端午

有叶當心危身立無憂故園足脚の
うのこまをこまふあひらうやめさ
ういどらうやまうらうらうん
きのぬまうらうにわらひあめさ
うらうらうらうらうらうらうらう

後小松院
湊田

天龍 厚念
友と 姑これ
とら 姑心奉

ゆ来 小し
波 姑心奉

ゆ来 小し
波 姑心奉

あし 姑心奉
あし 姑心奉

あし 姑心奉
あし 姑心奉

あし 姑心奉
あし 姑心奉

あし 姑心奉
あし 姑心奉

あし 姑心奉
あし 姑心奉

あし 姑心奉
あし 姑心奉

あし 姑心奉
あし 姑心奉

納涼

夏意 涼風 吹送 涼風 吹送 涼風 吹送

夏意 涼風 吹送 涼風 吹送 涼風 吹送

夏意 涼風 吹送 涼風 吹送 涼風 吹送

夏意 涼風 吹送 涼風 吹送 涼風 吹送

夏意 涼風 吹送 涼風 吹送 涼風 吹送

夏意 涼風 吹送 涼風 吹送 涼風 吹送

夏意 涼風 吹送 涼風 吹送 涼風 吹送

夏意 涼風 吹送 涼風 吹送 涼風 吹送

夏意 涼風 吹送 涼風 吹送 涼風 吹送

夏意 涼風 吹送 涼風 吹送 涼風 吹送

晚夏

竹亭 法合 偏里 夏名 極風 涼意 秋

竹亭 法合 偏里 夏名 極風 涼意 秋

竹亭 法合 偏里 夏名 極風 涼意 秋

儲光義



玉昌



章應物



劉長卿

きんぐらにまうすり何きれくせりぬき
たひいぬきもわしとせりし中務

秋 五 休

蕭颯涼風与寒蟬誰教計會一時休
鷄漸散同秋色山雞老趁虛堂掃
也たぬぬをたにさやにみく秋と
うはれととらふりおらり終ぬ
うらいつきふ物おらりきこの景ら
らきけけしめときふとせり中

早 休

修宣

但喜暑隨二休去不知秋送二无来
槐花西洞新秋地相老同涼多
美京新秋衣尚重涼深到
秋きらしていつとあぬとよの秋わ
何ものせいあもとすし

七 夕

憶得少年長乞巧竹竿双
二星遠逢未解的緒俗之恨

韓愈



柳宗元



劉禹錫



白居易



五更初的頻頻也涼風夜久

露應別淚珠之為也先後

風送雁悲聲及的的淚

玄衣與浪電夜濕

詞託激水墜且遣意

詞託激水墜且遣意

詞託激水墜且遣意

詞託激水墜且遣意

詞託激水墜且遣意

秋興

林間燠酒燒紅葉心題

林間燠酒燒紅葉心題

林間燠酒燒紅葉心題

林間燠酒燒紅葉心題

林間燠酒燒紅葉心題

林間燠酒燒紅葉心題

上

下



葛藤の裏流舟は松栢受ひ万里ん
 けりひき乃やまらたてものあくるたの
 あくくしり成りしらもわおじん
 しりしものまことつとみぬくにあきさる
 りしりあきこのあしつぬよそ野恒
 八月十五夜 付月
 秦旬之一千餘里涼く氷鋪漢庭
 卅六宮澄く杉錦織錦機中
 相思之字掃衣石上俄に愁あり之詩



三五夜中新月多三子重あ故心
 嵩山表裏千重雪海氷高傳其顆珠
 十回中勝於夢多好号里外各表音韻之光
 碧涵金波之文物扶風計去以空老
 自疑清素艶霧里人道善二花過夏
 岸向遠迷松上船潭池の舞舞深中魚
 瑞池便是苑常号紫翠清明玉不心

梅堯臣



蘇舜欽



蘇軾

金膏一滴秋風落玉運三更冷澹
揚貴妃歸唐帝恩委支人金漢
月乃其不てり月なるはのり
ころいとあさのりかちりけり

月

誰人既の久征我何事
秋水漲來船去速夜雲收卷
不醉對中筆玄得摩圍山
天山不辨何年雪合浦
欲和之韻幾韻否玄奈
卿波數の江戎老揮哥一曲
あまれん程あらしけ
みろこれや
あうくふふ
あすくく
いふ物
川

天山不辨何年雪合浦
欲和之韻幾韻否玄奈
卿波數の江戎老揮哥一曲
あまれん程あらしけ
みろこれや
あうくふふ
あすくく
いふ物
川

九月

付款

中世

黃庭堅



陳師道



陳與義



曾幾



鷺如社日群集去菊為重陽冒雨開

採在幸於淺水則亦草拚宮人衣

尋處踏於魏文之黃也助享社祈

先三運其吹之花如睡星一鴨河淺

了十方考蕩之秋疑秋霜如洛川

谷水沈花波下流而の上者者并錄如

地脈和味冷自精駐身能者又百箇身

いづのなとせきくのまらむに

菊

霜連老鬢二分白菊葉新老一色黃

不是花中仙愛葉也老用後更尋花

尚陰欲暮契松栢之後凋

秋景早移啣芝蘭之先敷

鄆縣村園皆洞屋陶家似子不盡書

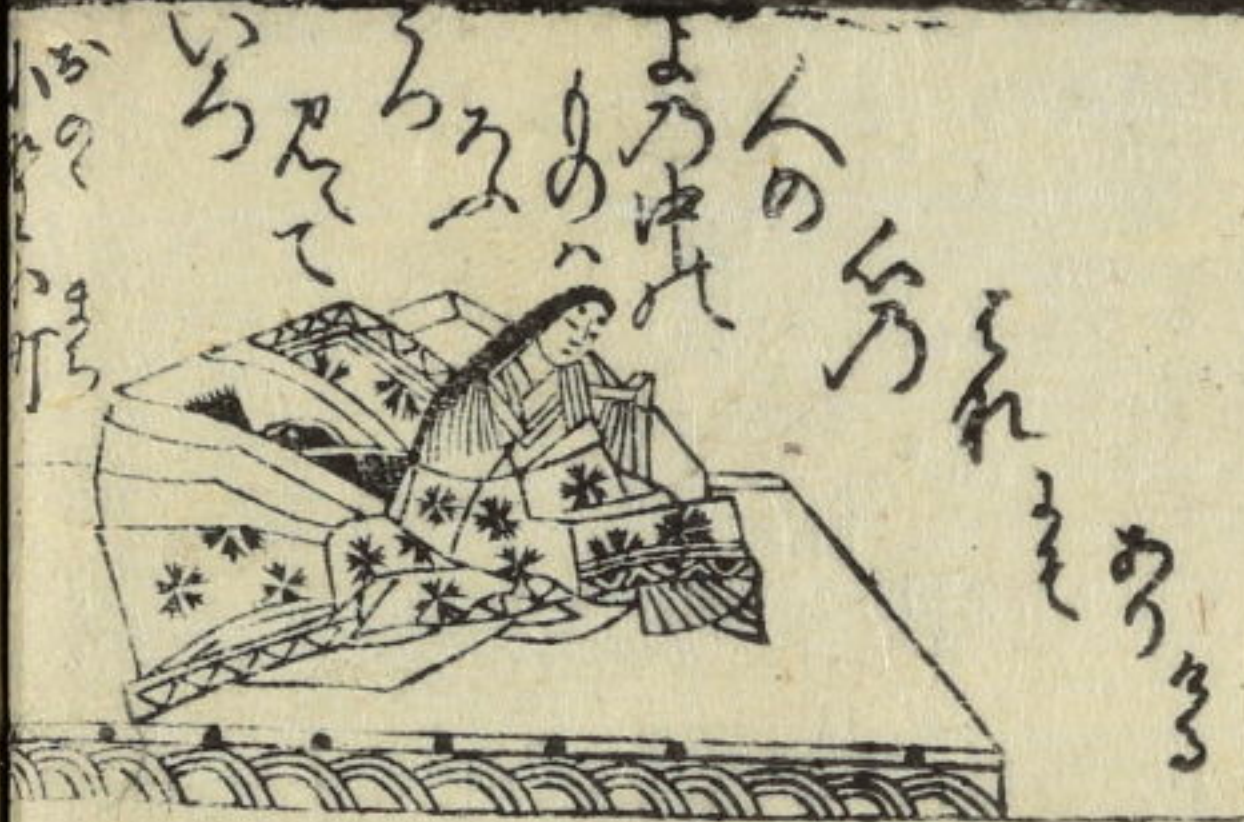
二十六年乃奇仙ハ
 四第大府云信古
 乃名女とあをまれ
 仙とあまれと
 毛髪光整法師た
 右よわちて十八歳
 にふりたれども
 奇ふあくあき
 ささまふ今法
 ときうはうの秘
 中さうりしと
 世若流布乃中に
 あやまりきうと
 ぞ一棒まかり
 むあせよいあくひ
 うむつ物ありし



蘭苑自慙為俗骨撞誰不信有長生
 蘭蕙荒崗推紫後蓬萊洞月照花
 九日盡
 延平函為固難為蘭想龍雲得
 延平函為固難為蘭想龍雲得
 延平函為固難為蘭想龍雲得

和弁二聖人
 掃地人磨
 掃地
 久これ
 君れまてま
 長れ路
 一我
 井を
 移
 主のあひし
 心をあへ
 頭目從隨禪客乞鉢施与太夜難
 文峯樓臺日酌系詞海艤舟の紫輝
 女即花
 花色如懸粟俗呼為女郎園名
 戲歌契偕老恐惡表存首似如

六舟仙



お見あへし... 秋の... 花始... 秋の... 花始... 秋の... 花始...

秋

秋の... 花始... 秋の... 花始... 秋の... 花始... 秋の... 花始...

蘭

蘭... 花始... 蘭... 花始... 蘭... 花始... 蘭... 花始...



松樹十年終は朽槿花一日目為業
 素るふ愛慈塔有佛衆之象
 玄るふ返槿難覺投業名也
 お月つれもあはれさうさしあさるるに
 ありしゆふみ好るりあさうかの也 道信
 いとほしとるるいささそみろめ 道信

花栽

花撰法師のついでに
 花原業平のついでに
 おひと
 あつ
 おひと
 あつ

自吾閑寂家侍春樹着栽秋草秋
 閑思著汝花紅目正是尚吾鬢白年
 曾非種虞思元亮為是花内信世
 紅葉 竹葉紫



右
龍標本磨
紀費之



不堪紅葉青苔地又是深庭暮色

昔猶猶林香有紫瓊瑤水淨風

洞中清淺瑞塔水海上墨珠錦繡林

外物独醒松洞之餘波合力錦江群

露と志くわいこりり心ハ

あつ葉のこつ葉しつらあふり

むくかけおとせかんはさふま

らせあしからららららららら

落葉

三秋而宮漏正長空陽而滴

万里の郷園何女一為葉深

秋庭不拂携の藤杖深踏梧樹葉

城柳交想漫搖落村悲不盡人心

梧樹秋中一亭くく向空鷹鷲

宵と敷片之ぬ洗殘

推籟生及杖窠朱葉片秋



凡 龍
柳橋
紀友判
夕されは卯の
河原に
川風
や
いほ
あき
あき



夕されは卯の
河原に
川風
や
いほ
あき
あき



夕されは卯の
河原に
川風
や
いほ
あき
あき



夕されは卯の
河原に
川風
や
いほ
あき
あき

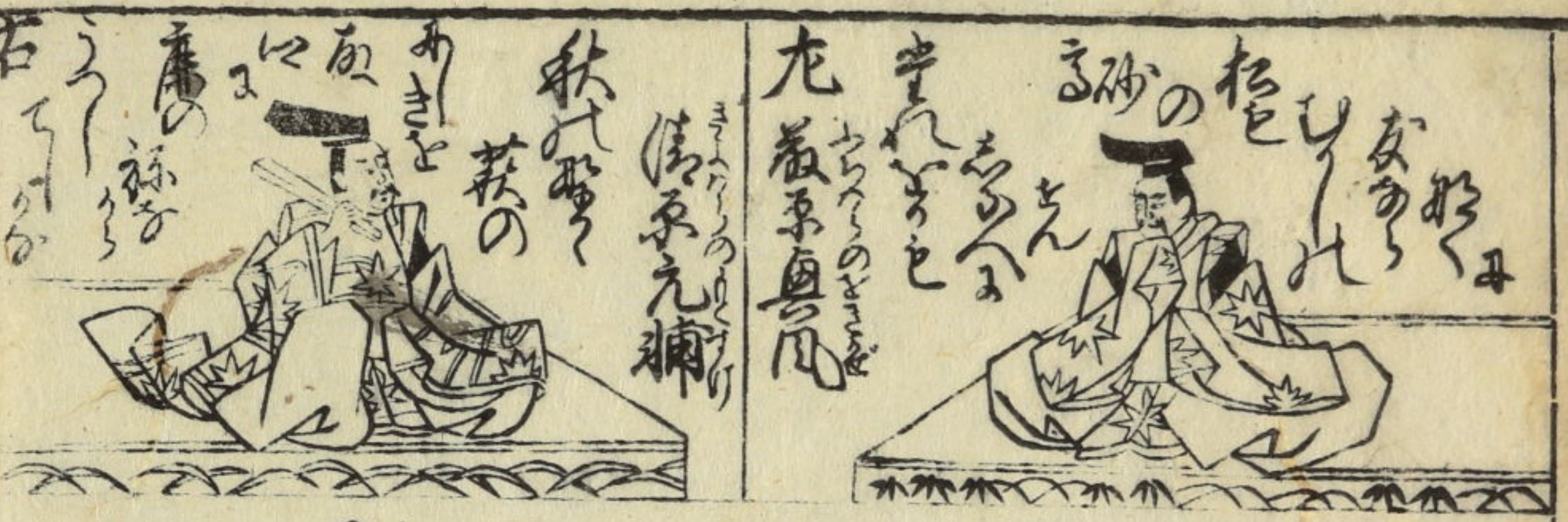
雲衣花并 鶴中贈同槽着 水酒再
あきせに 川原に 鶴さき 水酒再
あきせに 川原に 鶴さき 水酒再

歸鷹

山陽河原 斜奉常 水面新 秋衣巾
山陽河原 斜奉常 水面新 秋衣巾
山陽河原 斜奉常 水面新 秋衣巾

切暗窓下 夢深草 秋思 愁心 露夜 夢身
霜草秋枯 志思 昔風 枝葉 毛馬 拙雅
床爐短脚 茶釜 勢 席 狀 心 氣 乳 穿
山鑑 西 雨 野 真 風 心 激 猶 寄
藤 老 怨 遠 周 園 臨 隣 底 為 刀 垂 寄
いま ころ せ じ ころ せ じ ころ せ じ ころ せ じ
いま ころ せ じ ころ せ じ ころ せ じ ころ せ じ
いま ころ せ じ ころ せ じ ころ せ じ ころ せ じ

霜



三秋序雪花初白一色林葉染赤紅
 万物秋霜能堪之耐冬日寂凋
 困寒夢散或法孤烟之悲山深
 或初少人侵に皓之驢邊
 紀納言
 君子在深音不聲先教多晚疑也者
 病く己折たさる韜歩く初終萬履入

晨積瓦海馬後也寒也長鶴在好
 秋成さるん秋さるんきけんさるん
 雪

曉入梁王苑雪海香
 夜半度之楊花如子
 銀河沙漲之魚梅老用一五株
 雪似鵝毛非散秋初驚盡化烟



云生忠見



胡塞誰能令使三澤陀還恐先控志
 心之重れみさうまのさけりけりせに
 多ふれ水とくやとく心

霰

慶牙米敷聲之腕訪領津投顯を
 みるまふのあれさるりさやまきたり
 まるのらうら川さふきり 推心
 佛名

香火一燈燈一甚向人礼佛必理
 香自襟心を用火在冠合筆心因着
 わるるれととくれあははらりつれ
 はんものつとすならやあぬん 蓋盛
 ちよふまのさふふりさうけいさ
 とうりしふしたあふいさう心
 うのららにはらぬらうさうさ
 少のららにはらぬらうさうさ

和漢朗詠集上

當時禁中圖後光明院
 仰宇也禁裏南小百
 十一間東西百一問也其
 震殿板一之也四方板
 也ん也賢聖のまをト
 縮まのりこまきと付
 内多ん板一捨り其
 十一ろむ小八百す世ろ
 といん七南面れをえん
 てんやん元日即位兼
 礼式けんをそらゆ清湯
 敷板ま四やもんや上
 及の法帝濫西御
 奥のろ四木子二之問四
 愛堂園測の南周成

雜風

春風暗剪庭前樹夜雨偷

穿石上苔

入松易乱欲恹恹志之塊

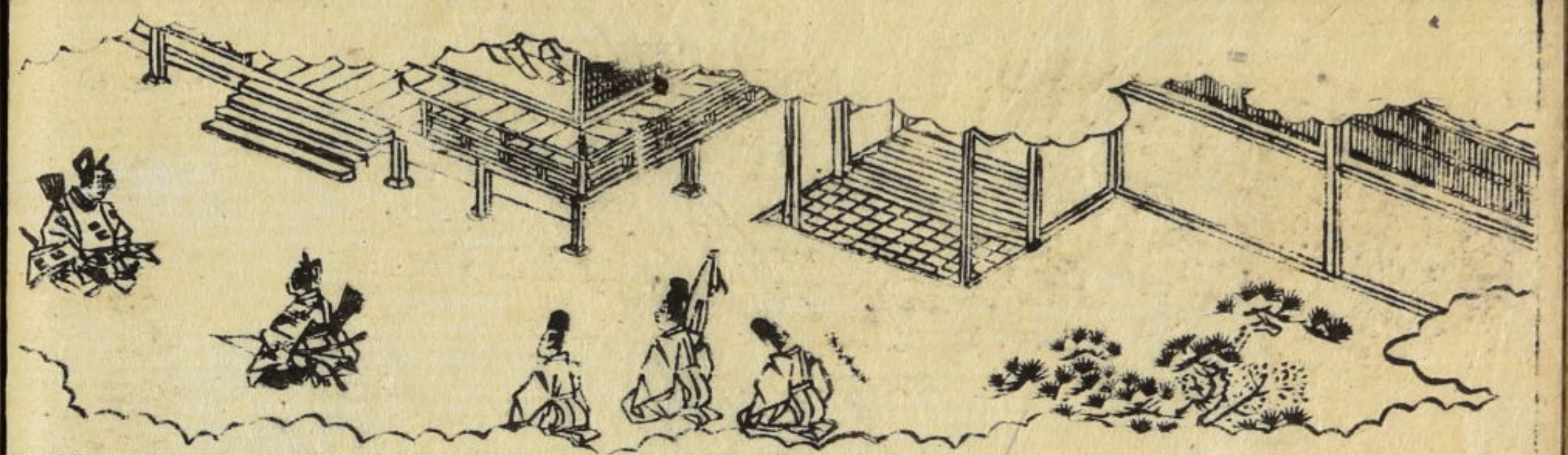
海水不歸應送列のし草

漢主手中吹不駐徐君嫁

上羽猶懸

輔唱

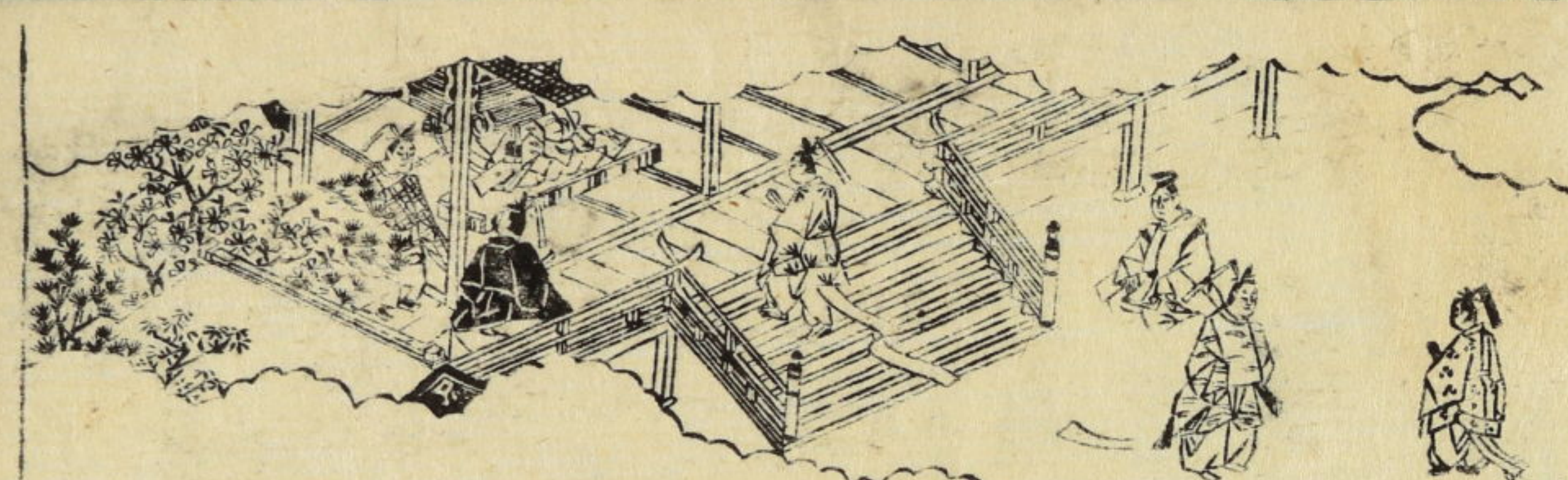
保胤



經姫裁扇應誇尚列子懸
 車不生還

あらうせのうけにつきてこいぬ
 子記の繁るういせりてまの
 ほのくろりりあをれ月乃つこ
 けちあささささすやまはうの
 雲

竹班湘浦空濺鼓瑟之聲
 鳳去秦臺月光吹蕭之地



山遠雲埋竹客依松垂風
 夜旅人夢

畫日里雲心不穩忘有湖見
 月夜方閑

海皓遊秦如竹皆礙孤峯
 月淘朱穉越美眼湛湖煙
 暫借崎池非真石空偷暖

出風

信明

紀齊名

元稹

二條 一条 藤原

以上五家

清和 藤原 三條

藤原 三條

藤原 三條

久我 三條

以上七家

大原 三條

三条 中條

以上三家

藤原 三條

藤原 三條

藤原 三條

藤原 三條

藤原 三條

藤原 三條

藤原 三條

藤原 三條

藤原 三條

藤原 三條

藤原 三條

藤原 三條

藤原 三條

藤原 三條

藤原 三條

藤原 三條

藤原 三條

藤原 三條

藤原 三條

藤原 三條

藤原 三條

昨日山中之本枝取於之

今日序前之老詞悲於人

王飲家之德徐詹事之為家

江淹一時之文集范別之遺文

陳孔璋病之吟病馬相如賦之漢雲

褚爵之恩銘刻石獲麟之集世如

方之もの繁うけりてま

酒

新豐酒也清於鶻鶻盃之中

長和漸色出咽於鳳凰管之裏

晉建威將軍劉伯倫嗜酒飲酒德頌

傳於世唐太子賓客亦天亦嗜

酒作渾切續以迷之

臨風杪秋樹對酒長身人醉白

第一 二つ



桐壺

くつき

おろし

くまや

くまや

くまや

帯本

くつき

くつき

くつき

くつき

くつき

空蟬

くつき

くつき

くつき

くつき

くつき

くつき

勝地本尊堂定美大朝臣履堂文

半野殿猶抄月昔曉龍悲落後煙香

純和抱来去体霞霧惟卷却翠屏胸

翠霧鴻興林頂老群涼暮叩谷心寒

かのももしりてやまハみりうとるゆき

あさ白ゆふひはなほふゆりて

くればりかこしはきくふ井さり

おゆくのやしとむと云らり

山水

泰山不讓土壤故能成其高

河海不厭細流故能成其深

巴徠一川停舟於此

於馬白明失治於若人袖續新

嶺日暮山書異族之清天始

漁舟火氣新楚楚

漁舟火氣新楚楚

あひ

くわら

くわら

くわら

くわら

茶

り

り

り

り

祿

り

帆用青草湖中古衣温黄柳又寒

水驛路穿院店月花船掉入湖春

菰蘆抄酌春濃酒船艦船流夜漲灘

閑居屬於誰人紫雲殿之存

秋水見龍何處朱雀院之秋

岳釣苦子河魚晴日浮極之有

初掉去唯字為遠慮旅者地

沙水刻印臨極處水底換車局乃

日御波平孤鴻暮風歎岸亭新

如

如

如

禁中

園池故面新秋丹龍朔前久為

秋月高懸之臨外仙即靜院禁

又十二山十

り

り

り

祿

り

り

り

り

り

次磨

り

とてあ
あつちり

神
三律

し女
よひる

きぬ
恋わ

三
うら

玉音
うら

ろく
か

三
うら

初音
うら

こ
うら

三
うら

胡蝶

奇大吐花色源於此
池酒為

根
同

深入仙家
為守日

里
後江想

丹竈道成
仙室

石床
安洞

根
香

王喬一去
長

高山
存

虛洞
有

通
及

如
ま

山家

遺
愛

下

三

ついで
こゝにいせむ

川
ひらひら

堂
いかにら

せしなり
まじしこの

川
いかにら

常
いかにら

かきり火
いかにら

川
いかにら

無火
いかにら

乃
いかにら

凡
いかにら

川
いかにら

野介
いかにら

蘭者花時錦帳下廬山雨夜草菴中

漁父晚船今浦釣牧童寒笛倚牛吹

王尚書之蓮府廉則廉恨唯有紅顏

之賓愁仲散竹林幽則幽嫌殆非素

倫之士

首三品

南望則有關路之長行人征馬駱驛

於翠簾之下東顧亦有林塘之妙紫

鷺白鷗逍遙於朱檻之前

源順

山深日暮溪邊身若抵溪牧笛之危

戶鳥歸遮眼者竹煙松霧之色

名君齊女嘗安浩洞裏後中對下流

晴後青山院隔近西初白如入川

觸石春雲生就上御奉曉月也定中

よのうらまひあはれんらうりあはれ

六五

やまはやくもゆきさきひりさゆらり
あまのこころをわかれぬとせり

田家

徳徳線取抽早稲青道徳常厚福
あまの一大途人吠教野解牛方積休
管酌卯時奈奈あは畦甲反綿心風
蕭素おれ吹笛中意深疎存持新
ほし海といとにさうあそぶあはき
もたしうとぬとけくもふりれ

と記すこころあはしいきく杉いぬ
あまのこころをわかれぬとせり
きねふあそびさけくしりいつふ
りるんあそびさけくしりいつふ

隣家

明月好同之位在徳揚里ぬあま書
不獨終身教相か子孫去化臨揚人
池邊別業是何人同道徳隆若卜徳
落枕ぬ勢うあそびさけくしりいつふ

あまのこころをわかれぬとせり



あまのこころをわかれぬとせり

あまのこころをわかれぬとせり

あまのこころをわかれぬとせり

あまのこころをわかれぬとせり



あまのこころをわかれぬとせり

あまのこころをわかれぬとせり

あまのこころをわかれぬとせり



あまのこころをわかれぬとせり

あまのこころをわかれぬとせり

あまのこころをわかれぬとせり

あまのこころをわかれぬとせり



あまのこころをわかれぬとせり

あまのこころをわかれぬとせり

あまのこころをわかれぬとせり

ゆりかきし
ま日さす

うらの
うらみ
かきりて

君しそ
う後しれん

あま葉

うかし

小まうりし
うらみ

いし
うら

あまの
うら

あま葉
うら

うら
あま

うら
月ゆき

うら
あま

あま葉

あま葉

あま葉
あま

あま葉
あま

あま葉

春燈通鏡
あまの
あまの
あまの

あまの
あまの
あまの
あまの

山寺

千株松下
あまの
あまの
あまの

更無信物
あまの
あまの
あまの

不改朝天
あまの
あまの
あまの

園水之橋
あまの
あまの
あまの

野相公

策馬来時
あまの
あまの
あまの

佳句
あまの
あまの
あまの

英明

人物
あまの
あまの
あまの

三子
あまの
あまの
あまの

水形
あまの
あまの
あまの

あまの
あまの
あまの
あまの

あまの
あまの
あまの
あまの

あまの
あまの
あまの
あまの

くこつえ

くこつえんれ

くこつえんれ

くこつえんれ

くこつえんれ

くこつえんれ

くこつえんれ

くこつえんれ

くこつえんれ

くこつえんれ

くこつえんれ

くこつえんれ

佛事

月隱重山寺奉麻喻之風息

太虚号劫樹教之

願以今生世俗女子之業狂言

締結之誤翻為當來世、談仏

乘之因指法輪之縁

百千万劫菩提種子之切徳林

十方佛土之中以西方為最九只蓮

臺之間雖下品應足

蜂十忍于猶了接長於疾風披雲霧

雖一念考必感應喻之巨海納消流

昔切利天之安居九十日刹赤梅檀

而橫尊容今跋提河之滅度二千年

堂紫磨金而礼兩足

江匡衡

慶澤記

津法

くこつえんれ

くこつえんれ

くこつえんれ

くこつえんれ

くこつえんれ

くこつえんれ

くこつえんれ

くこつえんれ

くこつえんれ

くこつえんれ

くこつえんれ

くこつえんれ

くこつえんれ

くこつえんれ

くこつえんれ

くこつえんれ

くこつえんれ

くこつえんれ

くこつえんれ

向むろし
くろくせしよ

四 ちまら
んまら
んまら

幻 りほ
うらひら

中りや
むろく

雨 りん
うん

白文 ちまら
うらひら

かわりま風乃
うらひら

四 まら
うらひら

紅梅 ちまら
うらひら

たりうい
うらひら

四 まら
うらひら

竹川 ちまら
うらひら

浪洗欲消軟竹馬而不願雨打易破

園芥熟而長忘

念極樂之尊一夜山月正圓先勾曲

之會三朝洞花欲落

玉磬聲思管絃奏納衣僧代綺羅人

眼蓮豈養清涼水面月長留十五天

以佛神通何酌盡經僧祇劫欲朝宗

叩凍肩來寒谷月拂霜拾盡暮山雲

已終未習十年役懂得難終一乘文

この世にほこひのこゝろと極つてハ
きりかんくひくへきかたをたかめらぬ

わらうとわらうとみやくふふのりて
わらうとわらうとわらうとわらうと

うくらくはけりきよふけりしや
いとあつくいきりくわらうとわらうと

うらうとあふふとわらうとわらうと
のりてあふふとわらうとわらうと

のりてあふふとわらうとわらうと
のりてあふふとわらうとわらうと

下

下

見たり
年中の事
一に歌

軍方

舟をこらる

舟をこらる

舟をこらる

舟をこらる

舟をこらる

舟をこらる

舟をこらる

小舟

舟をこらる

舟をこらる

舟をこらる

舟をこらる

舟をこらる

舟をこらる

舟をこらる

舟をこらる

舟をこらる

送客為歌分手於三百里後

楊柳依依我之送人多年李門波

高人之送家何日

百里東來何五日一生西去志未休

九枝枕夜唯胡曉一葉舟輕如約秋

秋江浮生約後志遠堪石火向風致

舟中夜半心已空

舟中夜半心已空

行儀

孤篷宿時風雨重

帆油清香水運雲

以重以之明月使之曉色亦雲

曉入長松之洞羨泉咽嶺接吟

水樹

言わたりしるま
このあふるすけ
いけのりし
あふこもく

股赤河貫

袖まのらした
こりしは
くま

陳時

あまのり
あまのり
あまのり
あまのり

長

あまのり
あまのり
あまのり
あまのり

白馬

あまのり
あまのり
あまのり
あまのり

視告

あまのり
あまのり
あまのり
あまのり

東甯極浦之海青嵐吹皓月冷

波に帆風之出波頭滴露同晴看

湖蒼靄雨他以浪岸松林風素雲情

蒼波流素雲を子里田霧山深鳥色

ほのくせのりしるまのあふるすけ

あまのりしるまのあふるすけ

あまのりしるまのあふるすけ

庚申

年長毎勞推甲午夜寒初共守庚申

已酉年終又自少庚申夜半曉光還

あまのりしるまのあふるすけ

あまのりしるまのあふるすけ

帝王

漢高三尺之劍坐制諸侯張

春日家

まろふの

社

まろふの

まろふの

作

まろふの

まろふの

まろふの

まろふの

女教位

まろふの

まろふの

まろふの

まろふの

陳國

まろふの

まろふの

まろふの

まろふの

まろふの

まろふの

まろふの

まろふの

まろふの

まろふの

まろふの

まろふの

まろふの

まろふの

まろふの

良一卷之書立登師傳

後漢書

項店之會鴻門寄情於一座之客

漢祖之歸沛郡傷思於四方之風

四海安危照掌內百王理亂懸心中

幸逢堯舜為化得作義皇向大

聖皇自有長生殿不向蓬萊玉母家

仁流秋津洲之外惠民茂筑波山之

陰測寰作瀨之聲窸々閉口沙

長為巖之頰洋々滿耳

紀淑望

梁元昔遊春王之月漸落周穆新

會西母之雲欲歸

晉三品

布政之遊風流未必敵於崑崙魚

之者此地也好文之世德化未必

光于黃炎氣之者我君也

晉三品

贈射

あつさういとの
つさかひのま
こころのちか
うふふのちか

心算

らくちのちか
のちか
やちか
のちか
ちか
ちか
ちか
ちか
ちか
ちか

祈年祭

いのち
ちか
ちか
ちか
ちか
ちか
ちか
ちか
ちか
ちか

旬

ちか
ちか
ちか
ちか
ちか
ちか
ちか
ちか
ちか
ちか

祭啓期之詩三樂未到常樂之門

皇甫謐之述百王猶暗法王之道

王宸日臨文鳳見紅旗風卷畫龍揚

荊鞭蒲朽螢守去諫鼓苔深鳥不驚

なめい
い
ちか
ちか
ちか
ちか
ちか
ちか
ちか
ちか

ちか
ちか
ちか
ちか
ちか
ちか
ちか
ちか
ちか
ちか

親王 付玉孫

庫車軟蓋貴公主番秋細馬豪家即

東平蒼之惟量寧非漢皇褒貴

無雙之弟哉桂楊鏢之文詞亦是齊

帝寵愛弟八之子也

江都之好勁撫也七尺屏風其徒之

淮南之亦神仙也一旦來重之何益

閑卷已知為子道秋風後望斷湘雲

加日その香

いさよそやあや
ふたふたやあや
りささあやの
いさよそやあや

射

いさよそやあや
ふたふたやあや
りささあやの

いさよそやあや
ふたふたやあや
りささあやの

射

いさよそやあや
ふたふたやあや
りささあやの

いさよそやあや
ふたふたやあや
りささあやの

射

いさよそやあや
ふたふたやあや
りささあやの

いさよそやあや
ふたふたやあや
りささあやの

射

いさよそやあや
ふたふたやあや
りささあやの

いさよそやあや
ふたふたやあや
りささあやの

射

いさよそやあや
ふたふたやあや
りささあやの

射

いさよそやあや
ふたふたやあや
りささあやの

者追及軍を司統と家雪身は連

相有書部大尉と漢風故人知

將軍

三尺叙光武在手一張弓勢月當心

雪中放馬朝尋跡雲外聞鳴夜射聲

千里徠來征馬疲十年離別故人稀

隴山雪暗李將軍之在家頻

水濱閑茶征虜之未仕

職列席牙雖拉衣勇於漢臣七

狗學抽麟南道味文素楚書一為

雄鈕在腰披劍杖衣冠人唯美

自也吹亦寒玉一勢

地有劍新復也死馬惡衣香紙變

施朱

秋のこのん

神人食
おのわらし

おのわらし
おのわらし

おのわらし
おのわらし

おのわらし
おのわらし

おのわらし
おのわらし

佛名

おのわらし
おのわらし

おのわらし
おのわらし

佛名

おのわらし
おのわらし

おのわらし
おのわらし

佛名

おのわらし
おのわらし

おのわらし
おのわらし

佛名

おのわらし
おのわらし

おのわらし
おのわらし

おのわらし
おのわらし

年深一徳故人文

長夜君之去殘年我幾何秋風滿

秋深泉下故人多

生事助危都似夢危遊雲落海濱

燕州船故新以晴王橋似宿為針

金谷醉花之地有每春為而主之歸

南橋觀月之人月与秋期而為何去

王子晉之昇仙後人之祠於堆嶺

月華大傳之甲世の客隱源於海

少く雲

役齡良才其權欲遺愛也業勿常謀

いりく乃を中けをえ川ぬらふ

しものころあはれあふあふあはれあはれ

あやしくめあとしみ川るるるるる

世の中にあはれあはれあはれあはれ

あはれあはれあはれあはれあはれあはれ

あはれあはれあはれあはれあはれあはれ

あはれあはれあはれあはれあはれあはれ

下

八十二

み娘

帝冠微

天ののののの
人へのののの
おひのののの

法カ賢カ懿カ

けりりりりり
くうりののの
さきにやう
月つむく
の柱なり

飛カ越カ奏カ
おひののの
おひののの
おひののの

風秋園扇書与昔絶

行文具月傷心
春風桃李花
夕殿堂花思情
南翔小鸞難
巾衣流兵言
開以園中

春風桃李花
夕殿堂花思情
南翔小鸞難
巾衣流兵言
開以園中

夕殿堂花思情
南翔小鸞難
巾衣流兵言
開以園中

南翔小鸞難
巾衣流兵言
開以園中

巾衣流兵言
開以園中

開以園中

寒園獨川書

貞女使

我々

おのの

今也

りり

觀身岸

下

感救
みことありて
わがてなほけ
車とてい
更申
いそよそ
あまの
わがてなほけ
車とてい

奏考
わがれ
二代
あまの
輦車
あまの
あまの
あまの

くく歳と花相似身と年と人と同
蝸牛南と幸何事有先中寄身
生者必穢釋者先梅檀之烟樂也
哀来天人猶名色五衰之白
如如紅影跨世路言为白身行却原
惟親村月收甲新道春也表京心名
世の中と名ゆきとくしひさし
こきゆくとあねの泣の

すあのつあともあはあの中
おきまらさささあああああ
あああああああああああ
あああああああああああ
白
秦皇駕軟遊丹之玄日為頭
漢帝傷嘆宿長之素時新賢
銀河澄朗素村天又月桂園自芳
光寶地歸寒浪底玉私後三晚也

何丹

正覺寺別持